

令和4年度 教育課程特例校自己評価

1 これまでの取組

島本町立第二小学校では、学校教育法施行規則第55条の2等に基づき、学校または地域の特色を生かし、学習指導要領によらない特別の教育課程を編成し、小学校第1学年から小学校第6学年までの系統的・連続的な「外国語活動」及び「外国語科」を展開し、外国の文化に触れ、国際感覚の基盤を培うとともに、英語による実践的コミュニケーション能力の素地の育成を図る取組を行っています。

小学校第1学年及び第2学年において、令和3年度に引き続き「外国語活動」を行いました。生活科を20時間削減して「外国語活動」に充て、外国語活動を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成していきます。、実践的なコミュニケーション能力の育成をめざして、音声から言語を獲得するための適期とされている小学校低学年から、「聞く」「話す」活動を中心に「読む」「書く」活動を含めた外国語教育を展開してきました。

2 令和4年度の自己評価

児童の意識（英語教育に関するアンケート 3, 4, 5, 6年生）肯定的回答の割合

		R4 前期	R4 後期
①	外国語活動や英語の勉強は好きだ。	75%	72%
②	外国語活動や英語の授業では発言や手を挙げるときなど積極的に参加している。	56%	68%
③	外国語活動や英語の授業中にわからないことがあった時、先生や友だちに尋ねてわかろうとしている。	78%	82%
④	外国語活動や英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う。	94%	92%

二小の教職員が授業づくりの中で大切にしていることは、伝え合う内容を重視し、伝え合う必然性を生み出す場の設定です。『聞く・話す・読む・書く』の必然を生み出すとともに、コミュニケーションへの意欲を高める目的・場面・状況の設定することで、児童の意欲、関心が高い学習事項を生かした題材・驚きや発見、気付きの生まれる、伝え合う値打ちの高い内容活動を通して、コミュニケーションのよさや自他のよさに気付く機会が増え、伝える言葉が豊かになると考えて取り組んでいます。その成果が②「外国語活動や英語の授業では発言や手を挙げるときなど積極的に参加している。」の肯定的回答のポイントの上昇という成果で表れていると考えます。

教職員のアンケートでも「外国語活動においておおよそのイメージがつかめている。」の質問項目において、肯定的回答の割合が90%、「外国語活動について児童と一緒に楽しんでいる。」の肯定的回答の割合が78%と高いポイント数で表れていました。教職員自身が他社とのコミュニケーションを楽しみ、その楽しさを児童と共有することで、質の高い授業づくりにつながっていると考えます。

しかしながら、①「外国語活動や英語の勉強は好きだ。」の質問項目について肯定的な割合は、75%、72%にとどまっています。外国語活動や英語の授業において一定数の児童が苦手意識を持っていることを踏まえ、さらなる授業改革によってどの児童にも他者とのコミュニケーションをとる喜びを感じられる授業づくりをめざしてまいります。0.